

## 映画を通じて歴史を学ぶ

### 教育学部・社会系教育講座 井出 匠

本学の共通教育は、学生が「グローバル化した社会や知識基盤社会に対応できる総合的な判断力と行動力を有し、地域社会の発展に貢献できる人間性豊かな社会人となるための「教養」を身につける」ことを目標として掲げています（共通教育部ウェブサイトより）。私が担当する共通教育科目では、大学卒業後に次世代の社会を担っていく学生にたいして、西洋の近現代史についての学びの基礎を提供することで、本学における共通教育の目的に寄与することを目指しています。

いわゆる「グローバル化」が進展するこんにち、日本の若者が様々な国や地域の人々と接点を持ち交流する機会は、今後ますます増えていくものと思われます。そのさい、それらの人々が生きる社会の成り立ちを、過去の時代からの積み重ねとして、すなわち歴史の歩みとして知っておくことは、相手にたいする理解をより深めることにつながります。一方で、特にこれからの若い世代は、世界的な労働市場の流動化や競争の激化など、グローバル化によって個人や社会にもたらされる様々な問題への対応を、いっそう余儀なくされていくことも事実です。このように多様性や流動性を増しつつある世界を理解するための知的基盤として、歴史的な知識や視点を習得することの重要性がますます高まっているといえます。

言語や宗教、民族の多様性を特徴とする西洋世界は、度重なる国家・国境の再編や住民移動を経験しつつ、制度や社会、文化など多面にわたる分裂と統合の歴史を歩んできました。それゆえ、その歴史や社会について学ぶことは、民族・宗教・移民といった現代の世界が抱える諸課題について理解を深めていくうえで、大きな助けとなるはずで、とりわけ近代以降の西洋世界の展開は、人権の抑圧や人種差別など、現在私たちが生きている社会で起きている様々な問題に直接関係してくるものです。それだけに、西洋近現代史に関する知見は、そうした諸課題について考えていくための

有益な視点を提示してくれることでしょう。

ただその一方で、実際のところ多くの学生が、歴史の学習というものに苦手意識を抱いているように思われます。その原因としては、高校までの歴史の勉強が、多くの場合暗記中心の無味乾燥なものであったことが大きいようです。歴史といえば、定期テストや入試に向けて、教科書に出てくる人名や事項、年代を丸暗記するもの——そんな印象を持っている人は決して少なくないのではないのでしょうか。そこで私が担当する科目「映画で学ぶ西洋近現代史」では、近代以降のヨーロッパやアメリカで実際に起きた出来事を題材とした映画の鑑賞を通じて、歴史を学んでいく取り組みを行っています。そのなかで受講者は、これまで歴史教科書や教師による説明、すなわち言葉のみによって接してきた歴史の世界に、映像という具体的なイメージを通じて触れること、またたんなるデータや事実関係の寄せ集めではなく、自分たちと同じような生きた人間のドラマとして歴史を体感することができます。そして、映画の中で再現された歴史的事実の重みを、よその国の遠い過去の話ではなく、自分たち自身の社会や人生にも深く関わる問題として受け止めることが期待されるのです。

もっとも、歴史を題材とした映画作品であれば何でもよい、というわけでもありません。授業で鑑賞するのは、とくに現在から将来にかけて、私たちがこの世界で生きていくうえで取り組んでいかなければならないアクチュアルな諸問題——差別や抑圧に抗し人間としての権利を獲得していくための戦い、戦争のもたらす惨禍、とりわけ人間性にたいする最大の攻撃としてのジェノサイドなど——を題材とする作品に限られません。したがって、特定の個人や集団を英雄視し、その行いを無批判に称揚するような内容の作品や、エンターテインメント性を主眼としてアクションやラブロマンスに特化した作品などは除外されます。また、基

本的には史実にもとづいたストーリーが展開されるノンフィクション作品を中心に取り上げますが、たとえフィクションであっても、歴史的な背景をしっかりと踏まえた内容で、かつ学習に資するようなものであれば、あえて鑑賞することもあります。2022年度には、以下の作品とテーマを取り上げました。

- 『アメイジング・グレイス』(2006年、イギリス) / イギリスにおける奴隷貿易廃止運動
- 『それでも夜は明ける』 / アメリカ合衆国の奴隷制度
- 『未来を花束にして』 / イギリスの女性参政権運動
- 『西部戦線異状なし』 / 第一次世界大戦におけるドイツ軍志願兵
- 『太陽の罅』 / ハンガリーのユダヤ人一族の運命
- 『戦場のピアニスト』 / ポーランドにおけるホロコースト
- 『白バラの祈り』 / 大学生による反ナチス運動

- 『グローリー / 明日への行進』 / キング牧師と黒人公民権運動
- 『グッバイ、レーニン!』 / 1989年のベルリンの壁崩壊と体制転換・ドイツ統一
- 『赤い闇』 / スターリン時代のソ連におけるウクライナ大飢饉

授業の進め方としては、3回の授業を1セットとし、各セットにおいて①映画作品の歴史的背景の解説、②作品鑑賞、③小テストを行います。小テストは、①の解説内容の確認と、②の作品鑑賞を通じて得られた知見や感想の自由な記述から構成されます。この三段階のプロセスを経ることで、歴史的事実に関する知識と、映画作品の内容とを有機的に結び付けつつ、人間社会の諸課題について深く考えていく機会を受講者に提供することができれば、と思っています。

## モノから読み解く文化財学

### この講義の特色はなんですか？

「モノから読み解く文化財学」は、夏季休業中の3日間の集中講義(前期)で、授業形式は講義を基本としていますが、グループ演習の時間もあります。それらを同時オンライン授業と録画配信を組み合わせ実施しています。Google Classroomを活用し、100人超の学生でも対応可能な授業となっています。

授業では、一方向の知識の提供ではなく、教員がのめり込む対象物の楽しさ、分析の視点を伝えることで、各学部の学生が実感でき、学びが広がることを目指しています。具体的には、前半で建造物や美術工芸などの見方・楽しさについて、見るべき特徴や使い方、評価のポイントを踏まえて教えます。後半はグループ演習で、まずは福井城の石垣、次に絵巻を対象とし、グループごとに選んだ対象の特徴を共同でレポートに仕上げてもらっています。習得した知識の実践を通じて、知識の使い方を身につけるとともに、大学での学びの醍醐味である研究の面白さの体感も意図しています。

### どのような教育方法の工夫をしていますか？

オンラインの利点は、疑似的な1対1の環境となり、資料を目の前に提示でき、学生に内容への意識を持つ

## 歴史・文化理解分野 担当教員 山田岳晴

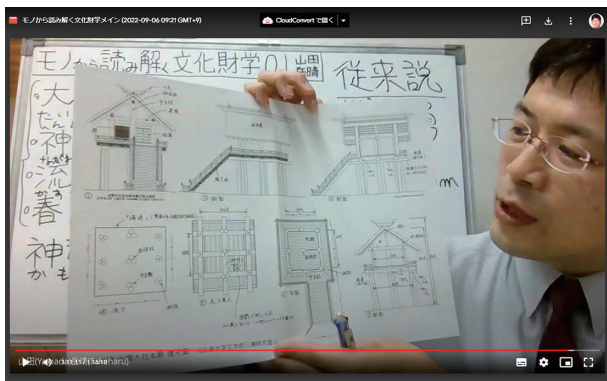
てもらいやすいことです。一方で欠点は、学生の様子や理解度がつかみにくいことです。そこで対面授業の臨場感とオンラインのいいところ取りを狙いました。

### 講義授業では…

学生の手持ち資料として、モノの写真・図面等の資料をPDFで提供しています。授業では、基本的に共有機能は使わず、資料を手を持って画面に見せながら解説をします。学生には「講義資料がとても見やすかった」など、解説箇所がアップになりわかりやすいようです。印刷すれば書き込みもでき、復習も可能です。

授業中はチャット機能で質問を受け付けて、わからないことなどへ即時応答することにしてあります。時限の終了時には、講義のポイントの選択問題と、質問や感想などの一言カードをGoogleフォームで提出してもらっています。これをもとに次の授業の冒頭で、よい質問などを取り上げて回答をします。「一言カードへの応答がよい。今後も続けてほしい」との感想もあり、理解度を把握し、タイミングよく疑問に答えることで、理解が深まり、授業に集中できているようです。

また、同時オンライン授業の映像はすべて録画配信しており、復習の促進を図っています。



オンライン授業の様子

### グループ演習では…

まず、講義用のメインの部屋とは別に、各班に Meet の部屋を用意しました。加えて、資料の共有などで自由に使える、班ごとのオンラインフォルダを提供しました。また、演習の対象となる福井城石垣は Google Map のビュー機能を活用し、絵巻資料はスキャンして共有フォルダに上げて参照できるようにしました。

演習に先立ち、関連する講義を行い、石垣については福井城の疑似見学ツアーをしました。演習では、学

生からの相談・連絡場所としてメインの部屋を維持しつつ、教員と TA が各班の部屋をまわって進行状況や質問などに答える方法で実施しました。

学生たちは、資料を共有しての討議、検索した資料のフォルダへのアップなど、次々とオンラインの利点を生かして作業を進めていました。特に、レポート作成で、書式データに複数の学生が同時に書き込んでいく姿を見て、デジタルの可能性も感じました。

### 授業への学生の反応はどうか？

一言カードからの学生の反応では、「初めて聞く言葉が多くて難しかった」と一部の意見がありましたが、概ね好評で「とても有意義な時間でした」「話が分かりやすく、聞き取りやすい」「授業がとても楽しいです！」など満足度は高いと思われます。また、大学での学びへの理解が進んでいると思われ、「研究の楽しさが伝わってきた」「絵巻を詳しく見たり考えたりするのは初めてだったが、グループワークなどでいろいろ発見することが面白かった」との感想もありました。

分野の特性もありますが、これからも対面とオンラインの利点を生かした授業を進めたいと思います。

## “ぎゅっと e” 導入の背景について

元工学部英語教育実施委員会委員長 橋本 明弘

### 本学工学部における グローバル対応語学教育の変遷

21 世紀を迎えると以前にもましてグローバル化が急速に進んだにも拘らず、日本からの海外留学生数は 2004 年度をピークに減少し、日本の大学もその対応に追われることになった。特に ASEAN 諸国や中国に顕著であったが、世界が急速にグローバル化する中でグローバル対応出来る人材を世界中が求めるという状況下にも拘らず、日本からの大学生の海外留学者数は年々急速に減少し、2009 年度には最盛期の 75% にまで減少した。これに危機感を覚えた文科省は、初等教育への英語授業の導入や改革を行うとともに、「グローバル人材育成推進事業」など大学生の海外留学生数増加やグローバル人材育成を狙った幾つもの新たなプロジェクトを実施した。本学も「グローバル人材育成推進事業」に応募し、工学部を中心としたタイプ B 「特色型」に 2012 年度に採択された。また、教育学部の改組に伴い国際地域学部国際地域学科が 2016 年

度に設置された。国際地域学部発足などグローバル化対応を見越した準備として 2011 年度には“語学センター”が設立され、グローバル化に対応した語学教育の改変が実施された。工学部の共通教育における語学教育、特に、それまで週 1 コマの講義形式で各期 2 単位、1 年生及び 2 年生の共通教育 2 年間で合計 8 単位の必修科目であった第 1 外国としての英語教育を週 2 コマの演習形式で各期 2 単位、2 年間で合計 8 単位へと変更された。つまり共通教育における英語教育に従来の倍の時間をかけ、所謂、“使える英語”能力の向上を目指すものであった。

国際地域学部発足や“語学センター”設立など本学におけるグローバル化対応は、2004 年の国立大学法人化に伴うガバナンス体制の強化のもと役員会をはじめとする大学執行部の主導のもとに実施された。英語教育改変は学部学生数で 6 割以上を占める工学部学生に対してこれまでの教育経験に基づく後述の理工学系学生対応の英語教育が中心ではなく、所謂、世の中で



喧伝された“使える英語”教育に主眼が置かれた。「グローバル人材育成推進事業」の申請内容における教育目標は多岐に亘るものの、その目標達成の客観的数値目標として、例えば、日本の産業界が求め始めていた TOEIC スコアの向上や学術交流の積極化に伴う受け入れ及び送り出し留学生数の増加が求められた。特に、工学部の学生には就職活動で有利になるとされた TOEIC スコアの向上が関心を集めた。そのような状況下で始まった「グローバル人材育成推進事業」では、工学部が 1980 年代半ばより充実に努力を重ねてきた国際交流の実績に基づき着実に実績をあげていたにもかかわらず、数年後には配分額が当初申請予算から年々削られるという状況により当初目標を大幅に超えるような成果を上げることも無く終了せざるを得ない状況に陥り、その結局、工学部の実態に十分基づかずに進められた工学部における英語教育は「グローバル人材育成推進事業」によりあまり大きくは進展しなかった。

### 法人化に伴う運営費交付金削減の影響

2004 年度に始まった国立大学の法人化に伴う運営費交付金の削減による影響はそれまでの日本の科学技術教育を支えて来た大学をはじめとする高等教育体制に様々な影響を与え始めていた。毎年 1% ずつの運営費交付金削減は、グローバル化対応のために改変した体制を、例えば、「グローバル人材育成推進事業」終了後も引き続き維持しながら事業を継続するという状況下では、工学部の共通教育における英語教育そのものを見直さなければならぬ状況に追い込まれることを意味した。グローバル化に対応するために全学的に導入された共通教育英語カリキュラムである週 2 コマ 2 年間の英語教育の維持が難しくなり、「グローバル人材育成推進事業」終了や運営費交付金削減の影響も含めた予算削減による人員削減のため、何らかの変更を行う必要性が明らかになりつつあった。そのような状況のもと、2018 年度より工学部英語教育実施委員会委員長として、「平成 32 年度からの共通教育における工学部英語教育に関する要望」を委員会での議論を踏まえて全学の英語教育委員会に提案した。そこには、グローバル化以前よりこれまで長らく工学部教員から教育学部をはじめとする共通教育における英語教育担当教員に要望していた内容が盛り込まれていた。当時、文科省が先導していたグローバル化に対応した表面的な英語教育改革では無く、理工学系において必要だと長年に亘って要望してきた技術英語教育の内容を実施してもらうことが基本的な考え方であった。

### 工学部学生に必要な英語力とは？

具体的に工学部学生に必要な英語力の養成目標として

- (1) 専門基礎科目の教科書のような論理的な文章の読破や作文ができる能力の養成
- (2) これまでのコミュニケーションな授業内容に、学会発表などを想定したプレゼンテーションの要素を強化して、学会でポスター発表ができる程度のコミュニケーション能力を養成
- (3) 大学 2 年修了時に学会などでの数百語程度の Abstract の作成やポスター発表に必要な不可欠な英語力の基礎となる部分の養成

などが主な内容として挙げられた。それらは、2012 年度以降全国で続けられてきた「使える英語力」という文科省が掲げる曖昧な目標を是正し、共通教育で習得したコミュニケーションな授業内容を如何にして 3 年生以降の専門教育に繋げるかを重点に議論した結果出された要望であった。当時の語学センター長の基本的教育方針は、日本人の英語教育に関するデータに基づくものではなく、英語圏以外の欧州諸国や東南アジアの開発途上国におけるデータに基づくコミュニケーションな英語教育の推進にあり、理工系人材に求められる英語力の養成に重点を置いたものでは無かった。理工系人材に求められる英語力には、理工系特有の基礎概念の理解及びその論理的表現を理解する必要があり、前記の一般的なコミュニケーションな英語力とは異なり、英語圏以外の欧州諸国や東南アジアの開発途上国においても能力の向上には長い時間を要することがデータに基づき明らかにされている。そのことは前述のセンター長も理解したうえでの当時の英語カリキュラム改変であり、本来工学部教員が求めていたものとは異なる方針であった。

### 語学力向上には“動機”が大切？

語学力の向上には動機とそれに基づく日頃からの練習が必要である。その動機付けの端緒は多くの工学部教員や技術英語教育に携わった教員が考えているように、他国に関する文化的興味を背景とした理工学諸分野への関心、さらに、それに基づくコミュニケーションな英語教育である。日本の経済界がグローバル化対応において若いエンジニアに真に求めている能力はそのようなものであり、当時我が国が推進しようとしたような、所謂、見た目の英語力ではない。特に、理工学系の学生にとって第一に必要なコミュニケーション力は内容を伴ってこそ初めて実を結ぶものであり、ただ英語が話せれば良いとするものではない。しかしなが

ら、文部科学省官僚を初めてとして地方大学における事務方管理層や医学部、教育学部などの純粋な理工学部系以外の人々或は国民一般は、理工学分野の本質的国际性に対する関心が薄く、その本質を理解することが難しいのであろうと考えられる。このような状況で如何にしてガバナンス力を向上させ得るのであろうか？当時“選択と集中”を神田真人前文部科学係担当主計局主計官（現財務官）は公言し一種の地方大学無用論を唱えるが、法人化以来この20年近くを振り返るとき、高等教育変革に関する政府の選択が正しかったとはとても思えず、間違った選択のもとに集中策を採用すれば惨憺たる結果になることは歴史も示すところである。現実のこの30年間の日本と同じような財政難にも関わらず科学技術的業績を向上させて来たドイツとの差を見れば明らかであろう。正しい選択のもとでの集中は大切であるが、間違った選択のもとでは逆効果になることは明らかである。今少し柔軟な対応が求められるが日本の官僚組織はそのような対応力に大いに欠けることは歴史的にもまた現在の誰の目にも明らかである。

## TOEIC のスコアでは英語力は測れないが、地道な練習は必要

前述のように中身に欠ける英語力は意味を為さない。従って、理工系人材に求められる英語力の向上には日常会話以上に各専門分野の専門性の理解が要求されるため、現在、工学部の技術英語教育に携わってもらっている教員の持つ特別な手法が必要である。私が赴任した1990年代初頭よりの経験によると本学工学部学生は基本的に英語嫌いであり、その原因は初等・中等教育、特に、1960年代以降の大学入試に重点をおいた教育体制にあると思われる。従って、大学初年度には、そのような語学教育を受け英語嫌いになった体質を変える必要がある。工学部初年度生に対応したコミュニケーション型の英語教育はそのような効果を期待するうえでは重要な要素と考えられる。また、就職の際に必要なあるいは有利とされるTOEICスコア向上は、本質的な動機とはなり得ないが、本学工学部学生には重要な動機になり得ると考えられる。TOEICスコアが高くともエンジニアに求められる英語力に欠ける例は幾らでもあげることが出来るが、その本質は専門分野の基礎力の欠如であり、英語力のみ原因がある訳ではない。しかしながら、従来の日本の大学における共通教育における英語教育では一般的な内容に基づく講義中心であり、基礎練習不足であることは明らかである。この

ような状況のもと、運営費交付金の更なる削減に伴い本学工学部学生に対する共通教育英語教員数を減らさざる得ない状況となった。そこで、2012年以降実施されて来た工学部学生に対する共通教育における英語教育を根本から見直す必要が生じ、前述のごとく議論を重ねた結果、週2コマの英語クラスは1年生で維持するが、2年生時には週1コマで前後期通年とし、さらに、英語基礎力の向上のためのITを用いた練習中心の内容に変更することを決定した。その後、英語教育関係の教員をはじめとして新しいIT活用の英語教育体制構築に向けた議論を重ねるとともに、英語教育実施委員会委員とともにIT教育展覧会や実際にIT教育を実施している同志社大学附属中学校や神戸学院大学国際学部への訪問・見学を行い実態の把握に努めた。また、英語教育ITプログラムを開発している数社のプレゼン発表会を行い、実態を把握するように努めた。その結果、広島市立大学国際学部が開発したオンラインで取り組める英語演習プログラムであり、名古屋大学、九州大学や立命館大学など多数の大学で採用され実績を挙げている“ぎゅっとe”を採用することとなった。その後、工学部英語教育実施委員会、全学教育改革推進機構英語教育部門会議などの決定を経て、2020年度前期より試行的に“ぎゅっとe”を導入した後、昨年度2021年度前期より正式に導入することとなった。カリキュラム改訂やプログラムの選定にあたっては、工学部の共通教育委員や英語教育実施委員とのオンライン英語授業に関する情報交換や議論が非常に役立ったことを付記しておく。また、導入の実施にあたっては、工学部英語教育実施委員会の各学科担当教員及び教務課の貢献に依るところが大であることも付記しておく。

## 目的と手段をすぐに取り違える我々日本人？

以上述べた経緯を経てオンラインによる2年生向けの英語授業が2021年度より開始された。2020年に始まったCOVID19新型コロナ禍にオンライン授業をするうえで“ぎゅっとe”が有効であったとの意見もあるが、その成果については、今後の実績調査などを経て改訂を重ねて行く必要があり、その結果次第では柔軟な対応が必要であると考えられる。オンラインを用いた英語科目はあくまでも手段に過ぎず、英語力の向上を目指す手段に過ぎない。そのことを受講生に徹底的に理解してもらう必要があり、各学科のガイダンス担当教員や教務担当係による頻繁な注意喚起が必要であると考えられる。単位取得のみが目的ではなく、オンラインを用いた授業で如何に自らの理工系英



語力を向上させるかが主目的であり、長期的に考えれば大学における共通教育で学ぶ諸知識や能力は大きな自己財産ともなることを是非とも理解してもらう必要があると考えられる。この点では、我が国の国民は、大学生に限らず社会全体が手段と目的をすぐに取り違える傾向にあることを認識する必要があるだろう。特に、語学能力は専門分野や日常生活において自らの考えや気持ちを表現し論理的に説明する“ツール”であり、決して単位習得が目的で無いことは明らかであろう。たとえ如何に時間がかかろうとも、しっかりとした目的設定のもとに継続的な努力をすることへの入り口としての認識が不可欠である。就活における TOEIC スコア向上もそのこと自体が目的ではなく、あくまでも国際コミュニケーション力の進歩を計るひとつの“ツール”に過ぎないことを学生とともに教職員も強く自覚しておく必要がある。特に、語学教育の場合

はその点は必要不可欠である。

### まとめ

語学教育をはじめとする最近の教育に関する諸課題の本質は、単なる手段である IT 支援教育技術を用いるか否かにあるのではなく、それらを用いて何を指すのかをしっかりと議論しつつ、目的と手段を取り違えること無くブラッシュアップしていく点にあると考えられる。目的の設定にも、近視眼的な目的設定とともに、所謂、“結合の誤謬”を避けるための中長期の目標設定や状況に応じた柔軟な変更が行えるような体制作りが必須であり、その基盤になる文化の醸成が何よりも必要であると考えられる。そのためには、今後数世代に亘る地道で根本的な文化土壌、明治維新以降築かれて来た近現代の我が国の文化土壌の根本的な変革が必要であろう。

## 工学部 2 年次英語ぎゅっと e クラス授業

### 工学部 党 超鋌

#### ぎゅっと e の概要

2021 年度から工学部 2 年生が履修する共通教育科目「英語 V、VI」に英語「ぎゅっと e」クラスが導入されている。2022 年度の機械・システム工学科では、教務課学務総務・共通教育担当の協力の元で、高橋 泰岳先生（知能システム工学）、川崎 大介先生（原子力安全工学）と党（機械工学）の三名の教員が担当している。

「ぎゅっと e」とは、短期間に集中して英語を学ぶことを目的として、北辰映電株式会社が開発した英語の e-Learning システムである。英語の 4 技能（読む・聞く・話す・書く）を効率よく伸ばすために開発されたシステムであり、大学向けには 1 期 16 週計 2 期のコースが提供されている。

工学部で「ぎゅっと e」を導入する目的は①各学科の英語の専門教育科目への接続まで学習期間を空けない；② TOEIC のスコアアップを目指す（院試、就職対応）である。

#### ぎゅっと e のレベル分けと進捗管理

「ぎゅっと e」クラスは、前期と後期に分けて、それぞれ 16 週の授業となっている。前期の第 1 週目

にガイダンスとプレースメントテスト（期首）を行う。プレースメントテストの結果により、Beginner、Intermediate、Advanced と Advanced+ の 4 つのレベルに分ける。レベル毎に「総合基礎英語」「Reading」「Listening」「Grammar」のぎゅっと e 教材を用いて 14 週の勉強を行った後、16 週目には期末試験を行う。また、前期のプレースメントテストの結果により、後期のレベル分けを行い、同じ 14 週の授業を受けた後、16 週目には期末試験を行う。また、TOEIC が 500 点以上の学生は、免除制度が適用される。

「ぎゅっと e」は学生が毎週指定された課題に取り組むことが基本である。各週の課題が未完了の場合、受講生に対して注意喚起メールがシステムより自動送信される。さらに、連続 3 回に課題未完了の場合は、当該受講生を呼び出して、担当教員による履修指導を行う。機械・システム工学科では毎回平均的に 10 名～15 名が呼び出し対象となっている。学生の呼び出し授業は本来、教員による直接コミュニケーションあるいは対面授業を実施することが目的であるが、実際の呼び出し授業は、殆どは学生を拘束させて課題を完了させることの確認になっている。

授業予定例：シラバス掲載

Week	Unit	Topic	Learning Objectives	Assessment
1	Introduction	Self-introduction	Listening and speaking	Classroom participation
2	Unit 1	My hometown	Listening and speaking	Classroom participation
3	Unit 2	My school	Listening and speaking	Classroom participation
4	Unit 3	My hobby	Listening and speaking	Classroom participation
5	Unit 4	My dream	Listening and speaking	Classroom participation
6	Unit 5	My future	Listening and speaking	Classroom participation
7	Unit 6	My country	Listening and speaking	Classroom participation
8	Unit 7	My culture	Listening and speaking	Classroom participation
9	Unit 8	My life	Listening and speaking	Classroom participation
10	Unit 9	My world	Listening and speaking	Classroom participation
11	Unit 10	My future	Listening and speaking	Classroom participation
12	Unit 11	My dream	Listening and speaking	Classroom participation
13	Unit 12	My country	Listening and speaking	Classroom participation
14	Unit 13	My culture	Listening and speaking	Classroom participation
15	Unit 14	My life	Listening and speaking	Classroom participation
16	Unit 15	My world	Listening and speaking	Classroom participation
17	Unit 16	My future	Listening and speaking	Classroom participation
18	Unit 17	My dream	Listening and speaking	Classroom participation
19	Unit 18	My country	Listening and speaking	Classroom participation
20	Unit 19	My culture	Listening and speaking	Classroom participation
21	Unit 20	My life	Listening and speaking	Classroom participation
22	Unit 21	My world	Listening and speaking	Classroom participation
23	Unit 22	My future	Listening and speaking	Classroom participation
24	Unit 23	My dream	Listening and speaking	Classroom participation
25	Unit 24	My country	Listening and speaking	Classroom participation
26	Unit 25	My culture	Listening and speaking	Classroom participation
27	Unit 26	My life	Listening and speaking	Classroom participation
28	Unit 27	My world	Listening and speaking	Classroom participation
29	Unit 28	My future	Listening and speaking	Classroom participation
30	Unit 29	My dream	Listening and speaking	Classroom participation
31	Unit 30	My country	Listening and speaking	Classroom participation
32	Unit 31	My culture	Listening and speaking	Classroom participation
33	Unit 32	My life	Listening and speaking	Classroom participation
34	Unit 33	My world	Listening and speaking	Classroom participation
35	Unit 34	My future	Listening and speaking	Classroom participation
36	Unit 35	My dream	Listening and speaking	Classroom participation
37	Unit 36	My country	Listening and speaking	Classroom participation
38	Unit 37	My culture	Listening and speaking	Classroom participation
39	Unit 38	My life	Listening and speaking	Classroom participation
40	Unit 39	My world	Listening and speaking	Classroom participation
41	Unit 40	My future	Listening and speaking	Classroom participation
42	Unit 41	My dream	Listening and speaking	Classroom participation
43	Unit 42	My country	Listening and speaking	Classroom participation
44	Unit 43	My culture	Listening and speaking	Classroom participation
45	Unit 44	My life	Listening and speaking	Classroom participation
46	Unit 45	My world	Listening and speaking	Classroom participation
47	Unit 46	My future	Listening and speaking	Classroom participation
48	Unit 47	My dream	Listening and speaking	Classroom participation
49	Unit 48	My country	Listening and speaking	Classroom participation
50	Unit 49	My culture	Listening and speaking	Classroom participation
51	Unit 50	My life	Listening and speaking	Classroom participation
52	Unit 51	My world	Listening and speaking	Classroom participation
53	Unit 52	My future	Listening and speaking	Classroom participation
54	Unit 53	My dream	Listening and speaking	Classroom participation
55	Unit 54	My country	Listening and speaking	Classroom participation
56	Unit 55	My culture	Listening and speaking	Classroom participation
57	Unit 56	My life	Listening and speaking	Classroom participation
58	Unit 57	My world	Listening and speaking	Classroom participation
59	Unit 58	My future	Listening and speaking	Classroom participation
60	Unit 59	My dream	Listening and speaking	Classroom participation
61	Unit 60	My country	Listening and speaking	Classroom participation
62	Unit 61	My culture	Listening and speaking	Classroom participation
63	Unit 62	My life	Listening and speaking	Classroom participation
64	Unit 63	My world	Listening and speaking	Classroom participation
65	Unit 64	My future	Listening and speaking	Classroom participation
66	Unit 65	My dream	Listening and speaking	Classroom participation
67	Unit 66	My country	Listening and speaking	Classroom participation
68	Unit 67	My culture	Listening and speaking	Classroom participation
69	Unit 68	My life	Listening and speaking	Classroom participation
70	Unit 69	My world	Listening and speaking	Classroom participation
71	Unit 70	My future	Listening and speaking	Classroom participation
72	Unit 71	My dream	Listening and speaking	Classroom participation
73	Unit 72	My country	Listening and speaking	Classroom participation
74	Unit 73	My culture	Listening and speaking	Classroom participation
75	Unit 74	My life	Listening and speaking	Classroom participation
76	Unit 75	My world	Listening and speaking	Classroom participation
77	Unit 76	My future	Listening and speaking	Classroom participation
78	Unit 77	My dream	Listening and speaking	Classroom participation
79	Unit 78	My country	Listening and speaking	Classroom participation
80	Unit 79	My culture	Listening and speaking	Classroom participation
81	Unit 80	My life	Listening and speaking	Classroom participation
82	Unit 81	My world	Listening and speaking	Classroom participation
83	Unit 82	My future	Listening and speaking	Classroom participation
84	Unit 83	My dream	Listening and speaking	Classroom participation
85	Unit 84	My country	Listening and speaking	Classroom participation
86	Unit 85	My culture	Listening and speaking	Classroom participation
87	Unit 86	My life	Listening and speaking	Classroom participation
88	Unit 87	My world	Listening and speaking	Classroom participation
89	Unit 88	My future	Listening and speaking	Classroom participation
90	Unit 89	My dream	Listening and speaking	Classroom participation
91	Unit 90	My country	Listening and speaking	Classroom participation
92	Unit 91	My culture	Listening and speaking	Classroom participation
93	Unit 92	My life	Listening and speaking	Classroom participation
94	Unit 93	My world	Listening and speaking	Classroom participation
95	Unit 94	My future	Listening and speaking	Classroom participation
96	Unit 95	My dream	Listening and speaking	Classroom participation
97	Unit 96	My country	Listening and speaking	Classroom participation
98	Unit 97	My culture	Listening and speaking	Classroom participation
99	Unit 98	My life	Listening and speaking	Classroom participation
100	Unit 99	My world	Listening and speaking	Classroom participation
101	Unit 100	My future	Listening and speaking	Classroom participation

第1項目の課題番号が第2項目の前々日まで完了していない場合のメール例文：  
「きゅっとからのお知らせです。あなたは、課題が未だ完了していません。明日まで必ず完了するようにしてください。」

第1項目及び第2項目の課題番号が第3項目の前々日まで完了していない場合のメール例文：  
「きゅっとからのお知らせです。あなたは、前回及び今回の2連続して課題が完了していません。明日まで必ず完了するようにしてください。3回続けてメールを受け取った場合は呼び出しになりますので、注意してください。」

第1項目、第2項目及び第3項目の課題番号が連続して第4項目の前々日まで完了していない場合のメール例文：  
「きゅっとからのお知らせです。あなたは、前々回、前回及び今回の3連続して課題が完了していません。明日までに完了出来ない場合は担当教員から呼び出しメールが配信されますので、メールの指示に従ってください。」

第4項目までに完了出来ない場合のメール（担当教員へ）：  
「きゅっとからのお知らせです。[ID/氏名]は前々回、前回及び今回の3連続して課題が完了していません。呼び出しメールを配信して呼び出してください。」

授業シラバス



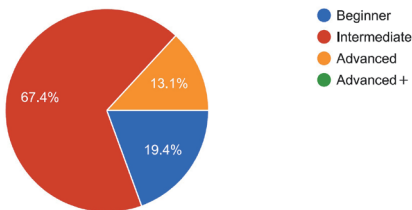
先生呼び出し授業の風景

学習効果

2021 年度前期の受講生のアンケートを見ると、学生からの評価は概ね好評であった。特に「リスニング力・文法力の向上に役立った」、「自分のペースで学習できる」の回答割合が高く、e-Learning を効果的に活用していることが見てとれる。

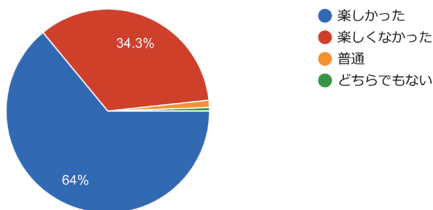
どのレベルを受講しましたか？

175 件の回答



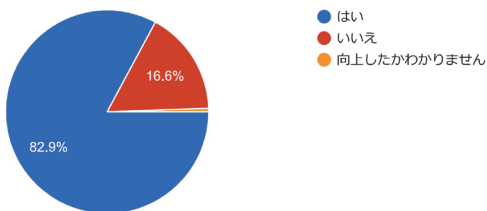
このプログラムを使った学習は楽しかったですか？

175 件の回答



このプログラムでの学習は、英語の技能の向上に役立ちましたか？

175 件の回答



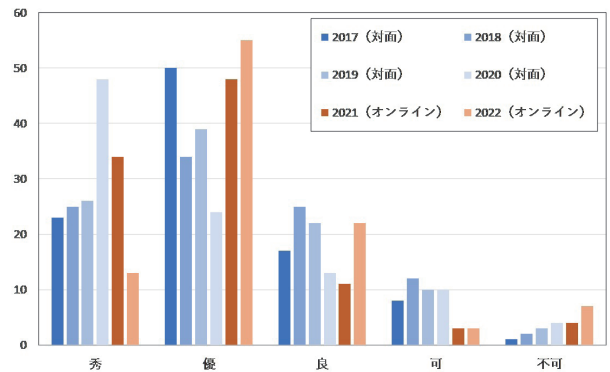
2021 年度前期授業アンケート結果例

下図は工学部 2 年次英語成績（英語 V）の 2017 年から 2022 年までの経年比較を示す。オンライン授業の導入 2 年目なので、成績評価の割合の直接比較は困難であるが、秀・優を合わせて比較すると概ね一致している。年度間の成績を比較すると、2022 前期は秀の割合が低い。これは Advanced+ の難易度が高く履修放棄した学生がいたことへの対応として、レベル判定時に Advanced+ 及び Advanced の割合を抑えていることと、成績評価の割合を変更したことが影響していると思われる。

また、レベル別でみると、Beginner 及び Intermediate は優・良の割合が高く、Advanced は秀・優の割合が高いため、比較的良好な結果と思われる。

ただし、2022 前期ぎゅっと e テスト期首期末の点数比較結果は、2021 前期と比べると点数の伸びが鈍い。それは、(期首・期末テストの未受験者)が増えているため、受講生へのアナウンス見直しが必要と思われる。

成績の経年比較（英語V）



(英語V) 成績の経年比較

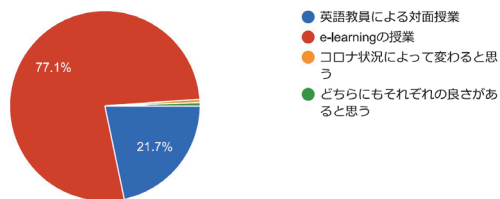
授業担当の感想

小生は 2022 年度から高橋先生と川崎先生に加えて、初めてぎゅっと e クラスを担当することになった。非常によくできたシステムで、学生の進捗管理、呼び出しリストの作成、期首・期末テストの実施などはシステム上で自動的に実施されている。

学生のアンケートからは、オンライン授業は対面授業より支持を得られている。その理由は、「教員との直接コミュニケーション」より、「自分のペースで学習ができる」ことを重視している学生が多いように見える。ただし、教員による対面授業の重要性が否定されたわけではない。呼び出し授業の時、何等かの対面授業を実施することができないか、今後検討していきたい。

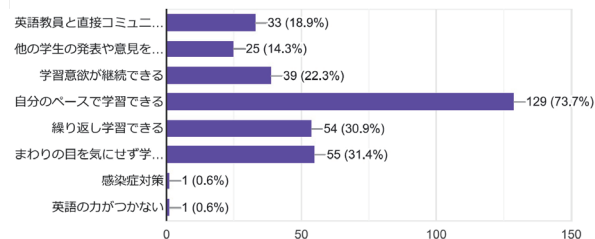
英語教員による対面授業とe-learningの授業、どちらを後輩学生に勧めたいですか？

175件の回答



その理由を教えてください

175件の回答



(2021年度前期授業アンケート) 学生のぎゅっとeクラスへの評価

## 共通教育の理念

共通教育は、学生に広く学問の知識や方法を修得させることによって、グローバル化した社会や知識基盤社会に対応できる総合的な判断力と行動力を有し、地域社会の発展に貢献できる人間性豊かな社会人となるための「教養」を身につけさせるとともに、円滑なコミュニケーションの基盤となる高い語学力及び専門科目の履修に必要な知識等を修得させることを目標とする。

## 編集後記

工学部からの共通教育委員長、および副委員長となって5年が経ちました。3年前にこのForum誌の編集委員をやったときは、新型コロナ禍が始まる直前であり、共通教育の改組が終わって改組後に共通教育を修めた学生と教員との座談会を行いました。あれからもう3年が経ったのですね。

さて、今回のForum誌は、この3年で新たに共通教育に加わった教育学部の井出匠先生と工学部の山田岳晴先生から授業の設計方法や工夫についてご寄稿いただき

ました。

また、工学部を中心に英語にe-learningが導入されましたが、その導入に尽力頂いた工学部の橋本明弘先生に、導入の経緯について、本学での英語教育の歴史を含めて述べていただきました。そして、実際に各学科でe-learningを実施する際の世話役をしている党超鋳先生が、授業の状況をご報告くださいました。

新たに共通教育に吹く風を、感じていただければと思います。

工学部 高木 丈夫

(編集委員：井出匠、小嶋啓介、高木丈夫、本田知己、横井正信、佐藤綾)

## 福井大学共通教育フォーラム

●発行日 2023年3月 ●発行者 福井大学共通教育部

●連絡先 学務部教務課 学務総務・共通教育担当 Tel 0776-27-8627 Fax 0776-27-8519 E-mail:kyoumu-kk@ml.u-fukui.ac.jp